



2026年3月30日

各位

会社名 株式会社オールアバウト
代表者名 代表取締役社長 江幡 哲也
(コード番号 2454 東証スタンダード)
問合せ先 取締役 森田 恭弘
(TEL 03-6362-1300)

2026年3月期第3四半期決算に関する質疑応答(要旨)

2026年3月期第3四半期決算発表(2026年2月12日)後に、株主・投資家の皆さまからいただいた主なお問い合わせやご質問とその回答について、下記の通り開示いたします。

なお、回答内容については時点のずれによって多少の齟齬が生じる可能性があります。直近の回答内容を最新の当社方針としております。

- Q1 : マーケティングソリューションセグメントの赤字が続いていますが、今後の戦略について教えてください。
- A1 : 2026年3月期第3四半期決算説明資料P3の事業区分のなかでは、グローバルマーケティングやデジタルマーケティングが堅調、メディアがセッション数や広告収益に依存しない新たな収益モデルの構築、デジタルトランスフォーメーション(サービス名「PrimeAd」)が事業拡大に挑戦中、ということになります。
堅調な事業で収益のベースをつくり、その間にメディア、デジタルトランスフォーメーションを成長軌道に乗せたいと計画しています。
- Q2 : コンシューマサービスセグメントにおけるサプライチェーン課題の影響と回復状況はどうなっていますか?
- A2 : 主要仕入先からの商品入荷が停滞、下期から商品調達が通常よりも1割程度下がり、収益低下の要因となっています。今期末から入荷量が増加しており、来期にかけて回復の見通しです。
- Q3 : サンプル百貨店のリアル店舗出店の狙いについて教えてください。
- A3 : 私たちが得意とする食品・飲料等におけるEC化率は現時点において5%程度と、まだ低い状況です。
この状況をポジティブに捉え、「話題の商品がお得に試せる」というコンセプトをリアル店舗によって広げられる余地が大きいと考えています。
また、サンプル百貨店事業は「商品の認知・利用機会の促進」というマーケティング機能をもっています。ネットに加えてリアル店舗へという集客接点の拡大は、提供価値の強化につながります。今後もネットとリアルのシナジーを活かしていきたいと考えています。

- Q4： ソフトウェア仮勘定が増えています。その理由について教えてください。
- A4： dショッピングやサンプル百貨店のシステム投資によるものです。
次世代システムへの移行により開発や業務オペレーションの効率向上に寄与するものとなります。

以上

- ・ 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき当社が判断したものであり、マクロ環境や業界動向等により変動することがございます。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。
- ・ これらリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動等、一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- ・ 投資判断を行う際は、必ず当社が開示している資料をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断において行っていただきますよう、お願いいたします。

株式会社オールアバウト

🖥️ 企業サイト <https://corp.allabout.co.jp>

🖥️ IR 情報 <https://corp.allabout.co.jp/ir/>

▶️ 2026年3月期第3四半期決算説明動画は[こちら](#)

📄 2026年3月期第3四半期決算説明の書き起こしは[こちら](#)

IR 情報 ▶

